

報道各位

## 《健康ブーム、60歳代は注目食材で老化防止》

～健康ニーズ基本調査2000より～

**健康の関心領域は「体調」「ストレス」、若者は外見・加齢とともに「老化」、  
今後食べたい注目食材のトップは「緑黄色野菜」**

**健康食材に関心高い60歳代、サプリメントは若い男性**

**「0-157」「遺伝子組み換え食品」への不安増大、**

**「ダイオキシン」「大気」「電磁波」は沈静化**

社団法人日本能率協会グループの運営する情報提供サービス機関マーケティング・データ・バンクでは、首都圏（一都三県）に在住する15歳～69歳の男女1,500人を対象に、98年に引き続いて「健康ニーズ基本調査2000」を実施いたしました。

**《健康ブームの検証》** テレビなどで話題となった食材・栄養素などはどこまで定着したのか？健康ブームの生活の中での浸透度合いを検証します。

- (1) 話題となった93項目の食品、28品目の健康食品・栄養強化食品をあげ、健康や身体を意識して積極的に食べたり飲んだりしたいもの、話題になって積極的に食べたり飲んだりしたいものを調査
- (2) 58項目の栄養素をあげ、名前の認知・効用認知・摂食意向を調査
- (3) その他、健康に関する用語で気になっているもの、健康に関して参考にしている情報源を調査

**《健康ニーズの基本を精査》** 「健康」とひとくちにいったときに、どんな領域・どんなことに関心があり、何を行っているのか。健康マーケティングを行ううえで必要不可欠なベーシックかつ広範囲なニーズ調査を実施しました。

- (1) 普段の健康度合い・関心領域について、性・年代による差を検証
- (2) 体の自覚症状や不安事項など77項目について気になっていること、積極的に改善したいことを調査
- (3) 49項目の健康・美容法について、実行率を調査

その他、健康についての考え方、環境汚染・食品問題など多岐にわたって「健康ニーズ」調査を実施し、総合的に分析を行いました。今回はその中から、「健康の関心領域」「今後食べたい注目食材」「環境や食品への不安」に焦点を当ててご報告いたします。

### [今回の調査の概要]

本調査は、弊社自主企画による調査に複数企業にご参加いただく方式で実施いたしました。

調査結果一式のご提供は下記費用を申し受けます。

- ・費用：1社につき定価36万円(MDBメンバーは32万円) \*別途消費税を申し受けます。
- ・調査対象：首都圏（一都三県）在住の15～69歳の男女
- ・調査方法：日本能率協会総合研究所「J-FAXリサーチ」システム利用によるFAX調査
- ・有効回収数：1,165サンプル（発送数1,500サンプル 回収率77.7%）
- ・調査実施日：2000年7月13日（木）～18日（火）
- ・調査のアウトプット： 調査報告書（A4版/48ページ） 集計結果表（A4版/687ページ）

## 健康の関心領域は「体調」「ストレス」

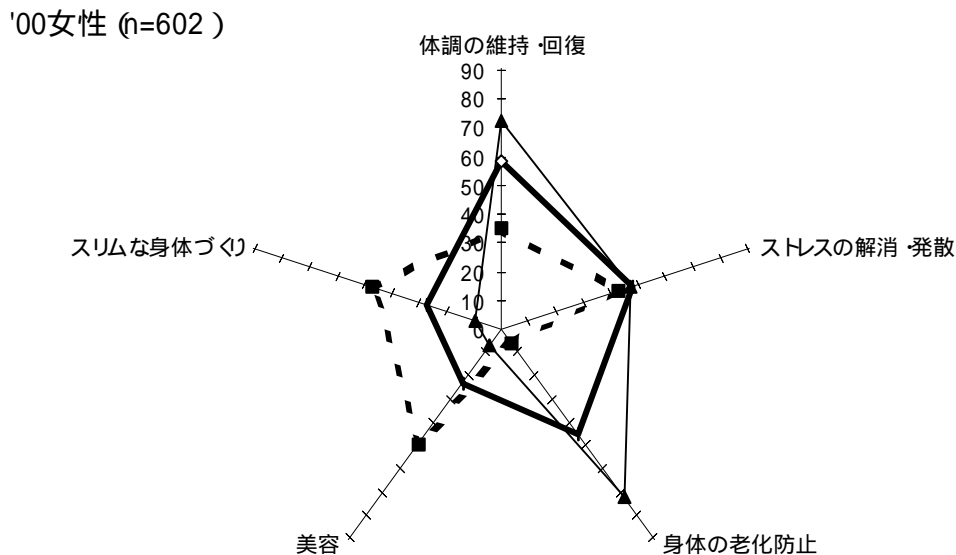
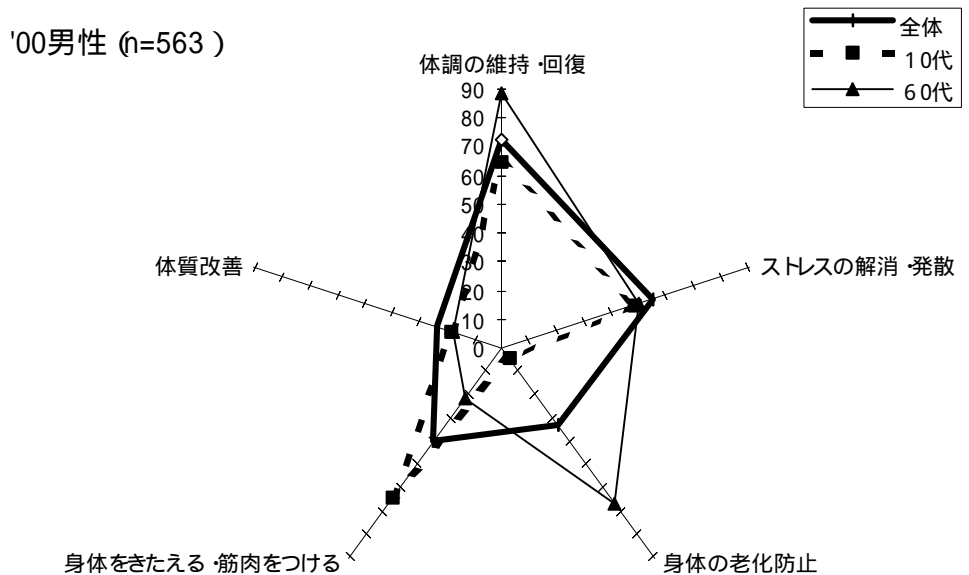
### 若者は外見を気にして、加齢とともに「老化」へ

健康に関する9項目の中から関心のあるものを選んでもらったところ、「体調の維持・回復」がトップで男性7割、女性6割の回答、続いて「ストレスの解消・発散」が約半数となった。

以下、男性は「身体をきたえる・筋肉をつける」「身体の老化防止」「体質改善」の順、女性は「身体の老化防止」「スリムな身体づくり」「美容」の順となり、男性の関心領域は 鍛える、女性の関心領域は スリム 美容 という結果となった。

年代別に見てみると、「体調の維持・回復」「身体の老化防止」は、男女とも年を経るほど関心が高くなっており、逆に男性の「身体をきたえる・筋肉をつける」、女性の「スリムな身体づくり」「美容」といった見た目の健康は若い人ほど関心が高くなっている。また、「ストレスの解消・発散」に最も関心が高いのは男女とも30代という結果となった。

健康について関心のあること(3つに )

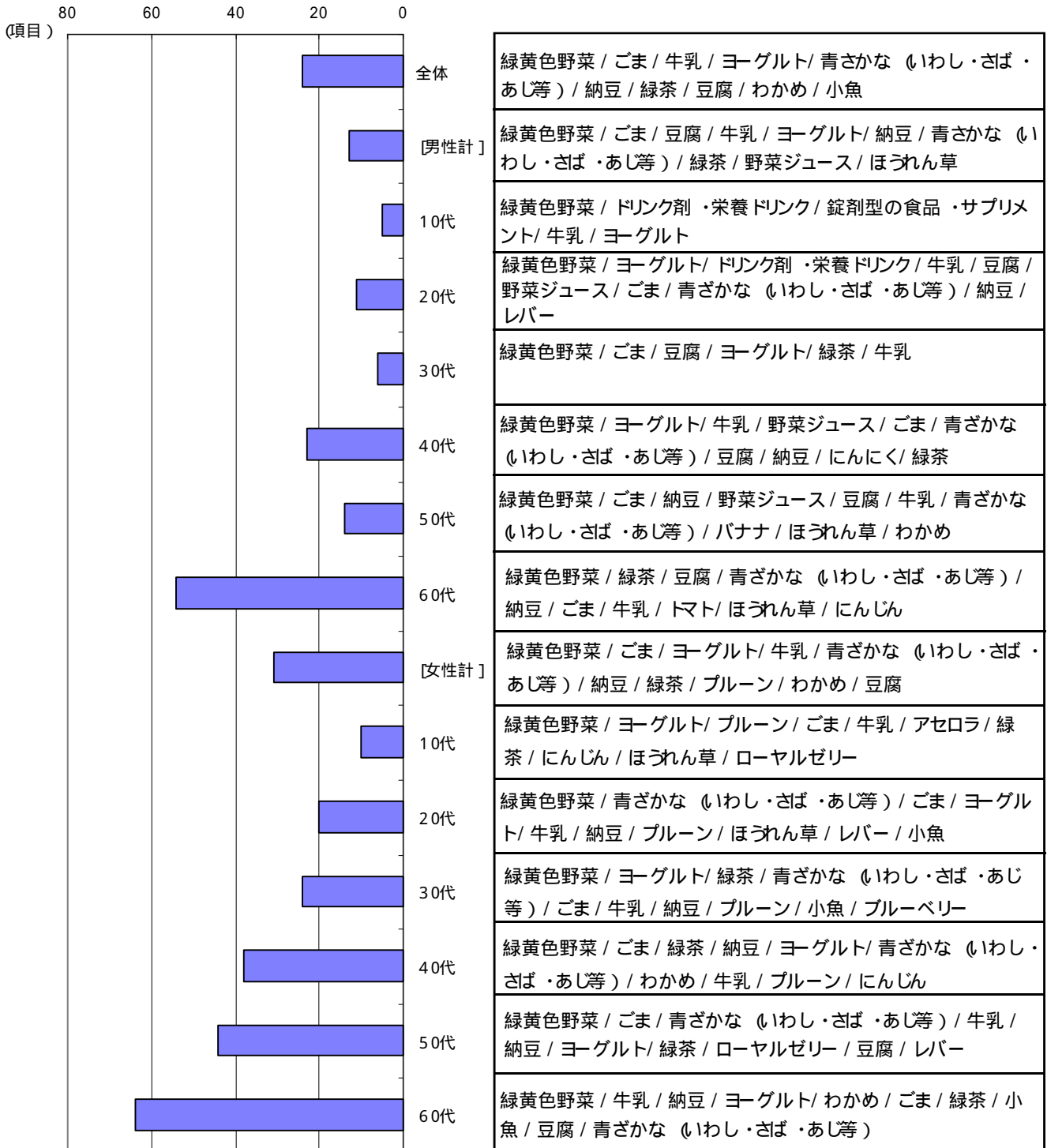


## 今後食べたい注目食材のトップは「緑黄色野菜」

### 健康食材に関心高い60歳代、サプリメントは若い男性

食材121項目について、「話題になっており、今後食べたり飲んだりしたいもの」と注目食材をあげてもらった。3割以上の回答があった食材の項目数を男女年代別に比較してみたところ、男女とも60代は群を抜いて多い項目数があり、昨今の健康ブームの担い手ということが出来る。項目ベスト10をみると、各年代とも「緑黄色野菜」を筆頭にテレビなどで話題となった食材が並ぶ。その中で、10代は男女ともサプリメントやアセロラなど他の年代とは違う健康アイテムがあがっている。

3割以上が注目している食材の項目数とベスト10



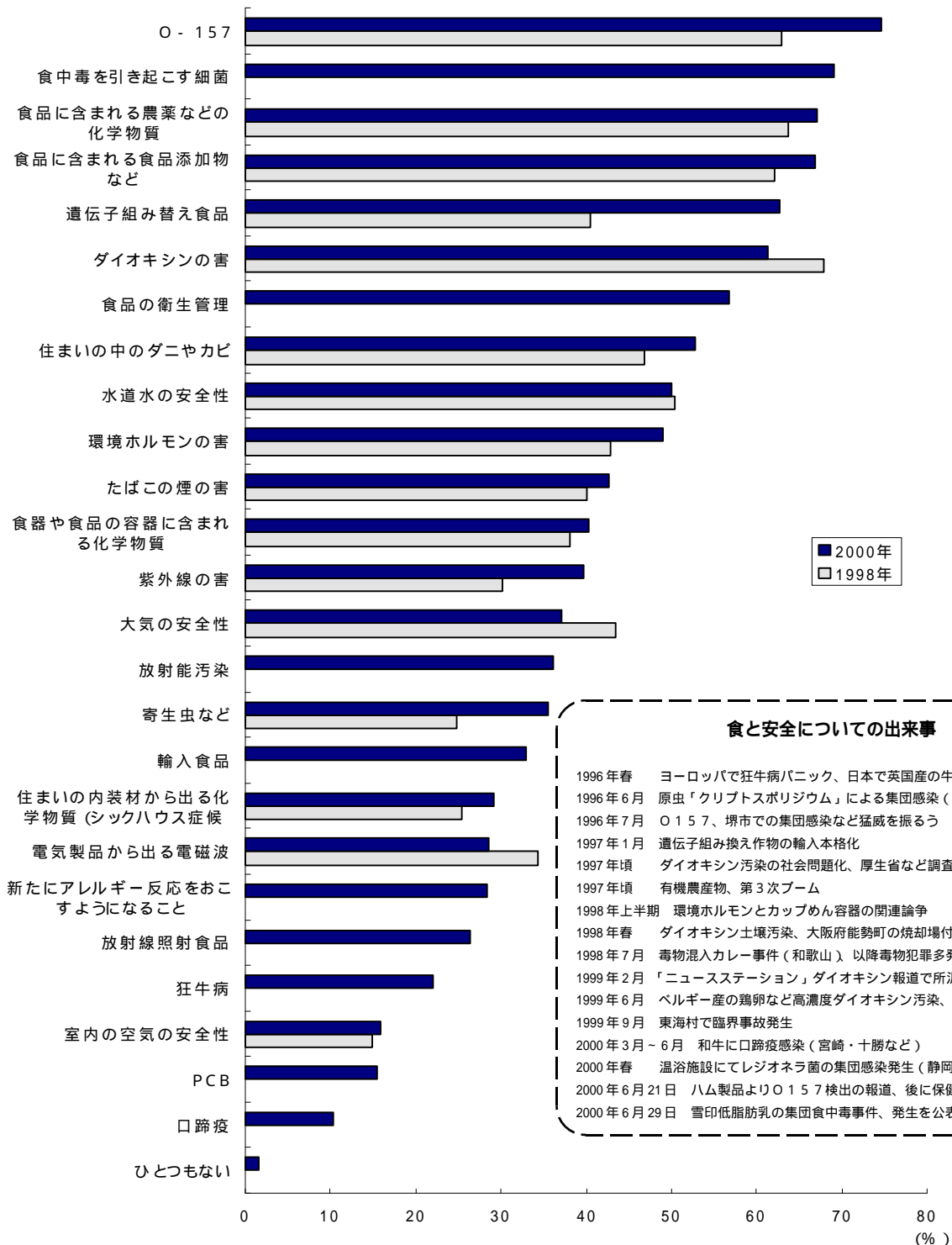
「話題になっており、今後食べたり飲んだりしたいもの」  
3割以上の回答のあった項目のベスト10

# 「0-157」「遺伝子組み換え食品」への不安増大、 「ダイオキシン」「大気」「電磁波」は沈静化

今回の調査で前回（98年実施）を5ポイント以上上回った項目は「0-157」「遺伝子組み換え食品」「住まいの中のダニやカビ」「環境ホルモンの害」「寄生虫など」「新たにアレルギー反応を起こすこと」。特に「0-157」「遺伝子組み換え食品」は、この2年間で大幅に不安を感じていると回答した人が増大している。

前回一位の「ダイオキシン」は今回6位。代わって食中毒を起こす「細菌」「食品の衛生習慣」などが上位を占め、調査時に発生した雪印の影響など、その時々社会を騒がせている事件やマスコミ報道に大きく影響されるといえる。

不安を感じている環境汚染・食品問題



### 食と安全についての出来事

- 1996年春 ヨーロッパで狂牛病パニック、日本で英国産の牛肉加工品の輸入禁止
- 1996年6月 原虫「クリプトスポリジウム」による集団感染(埼玉県越生町)
- 1996年7月 O157、堺市での集団感染など猛威を振るう
- 1997年1月 遺伝子組み換え作物の輸入本格化
- 1997年頃 ダイオキシン汚染の社会問題化、厚生省など調査・法規制も
- 1997年頃 有機農産物、第3次ブーム
- 1998年上半年期 環境ホルモンとカップめん容器の関連論争
- 1998年春 ダイオキシン土壌汚染、大阪府能勢町の焼却場付近で発覚
- 1998年7月 毒物混入カレー事件(和歌山)、以降毒物犯罪多発
- 1999年2月 「ニュースステーション」ダイオキシン報道で所沢産の野菜大暴落
- 1999年6月 ベルギー産の鶏卵など高濃度ダイオキシン汚染、食品パニックに
- 1999年9月 東海村で臨界事故発生
- 2000年3月～6月 和牛に口蹄疫感染(宮崎・十勝など)
- 2000年春 温浴施設にてレジオネラ菌の集団感染発生(静岡県、茨城県など)
- 2000年6月21日 ハム製品よりO157検出の報道、後に保健所の検査ミスと判明
- 2000年6月29日 雪印低脂肪乳の集団食中毒事件、発生を公表

### [マーケティング・データ・バンクとは]

マーケティング・データ・バンクは、社団法人日本能率協会グループのシンクタンク、株式会社日本能率協会総合研究所（略称：日能総研 社長：栄 武男 本社：東京都港区）が運営する、国内最大級のメンバー制ビジネス情報提供サービス機関です。

開設以来30年以上、日本を代表する様々な業種の企業約2,000社の企画／調査／営業／技術部門の方々にご利用いただいております。官庁統計、公開調査資料、業界紙、各種民間企業発表資料など約12万点の蔵書を有し、独自の検索システムを構築いたしております。

各種業界事情に通じ検索手法をマスターしたスタッフにより、さまざまなビジネスデータを提供することが可能です。

電話1本で必要な情報を入手できるシステムとして、年間約12万件のお問い合わせに的確、迅速に対応し、情報収集のパートナーとして高い評価をいただいております。

### [本件についてのお問い合わせ先]

（株）日本能率協会総合研究所 マーケティング・データ・バンク

担当：土井／進士／渡辺

電話：03 - 3578 - 7508

〒105-0011 東京都港区芝公園3 - 1 - 38 秀和芝公園3丁目ビル4F

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。